

事業所における 自己評価結果（公表）

公表：令和 5年 12月 1日

事業所名 コペルプラス武蔵中原教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4			
	②	職員の配置数は適切である		4		急な異動や休職が重なり、法令は遵守しているが、安定した職員環境の確保が難しい状況にあった。他教室からのヘルプや異動もあり、今後は安定した環境が整う予定となっている。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4			
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4		療育終了後に必ず清掃を行い、適宜換気や消毒を行う等過ごしやすい環境作りに努めている。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4			
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		毎年実施し、頂いたご意見に関しては意向等把握して業務の改善を行っている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4		毎年事業所のホームページに掲載して対応している。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4			第三者評価は実施していない。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		本部にて資質向上のための研修を幅広く展開しており、参加している。	
適切な支援	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4		支援計画面談時等にアセスメントを実施し、支援計画に反映している。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4			

の 提 供	(12) 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4			

児童発達支援計画に沿った支援が行われている	(13) 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4		支援計画に沿って課題を設定し、支援を行っている。	
	(14) 活動プログラムの立案をチームで行っている	4		プログラムの変更等は共有し、その後の支援にも引き継いで対応している。	
	(15) 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		月ごとに新しいプログラムを展開している。	
	(16) 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	4		お子様の状況に応じて保護者様と検討し、個別活動と集団活動について考慮している。	
	(17) 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		朝礼の際や連絡ノートを活用して確認を行っている。	
	(18) 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		療育終了後に職員間で振り返りを行い、共有している。	
	(19) 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		児童の様子だけでなく保護者様からのご要望も含めて必ず記録に残し、検証・改善につなげている。	
	(20) 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4		6ヶ月ごとにモニタリングを実施し、判断している。	
	(21) 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		現状開催されたことはないが、必要な場合には児発管が参画する。	
	(22) 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4		療育センター等と必要が生じた場合には情報共有等を行っている。	

護者との連携	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				該当児童がいないため、行ってない。
	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				該当児童がいないため、行ってない。
関や保護者との連携	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	1	該当児童がいた場合には対応させていただいている。	
保護者との連携	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4		該当児童がいた場合には対応させていただいている。	
	他の児童発達支援センター・児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4			
保護者への説明責任等	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		4		幼稚園や保育園の先生のご要望に合わせて対応させていただいている。

保護者への説明責任等	(自立支援) 协議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		4		今後参加出来る機会があれば、積極的に参加したい。
	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		療育後のフィードバック等の機会を活用し、保護者様が伝えやすい雰囲気作りに努めている。	
	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	3	1		個別支援相談等行っており、今後も周知出来るように努めていきたい。
保護者への説明責任等	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		契約時に行い、その都度ご質問にお答えしている。	
	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4		契約時並びにモニタリングや支援計画面談の際に必ずご説明している。	
	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		療育後に必ずフィードバックを実施し、お悩み等の相談に対応させて頂いている。また、次回の療	

					育に反映されるよう必ず 引き継ぎを行っている。
③⁵	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	3		コロナ禍であったこともあり、引き続き情勢等について考慮しながら検討していきたい。
③⁶	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4		ご利用者様からご相談やご要望があった際には迅速に対応させていただいている。	
③⁷	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		毎月おたよりを配布するとともに、LINE でも情報の発信を行っている。	
③⁸	個人情報の取扱いに十分注意している	4			
③⁹	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			
③⁹	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	2		コロナ禍であったこともあり、引き続き情勢等について考慮しながら検討していきたい。
非常時 等の 対応	④¹	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4		
	④²	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4		
	④³	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	4		
	④⁴	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	1	アレルギーや対応について契約時に保護者様からご共有いただきしており、指導員への共有に関しても今後も徹底して行っていく。
	④⁵	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		
	④⁶	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		

④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4		契約時にご説明し、対応させていただいている。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。